

チャレンジ工房News

第 63 号

平成 28 年 6 月発行

発行先 パソコン工房チャレンジ

編集責任者 曲 圭子

イラスト Aya・keiko

工房の日々・・・ ～メール入門講座をしました～

5 月度の工房内レクとして、メール入門講座を行いました。

現在、工房に通所している所員さんを多くは、自宅でも工房でも「パソコンを使ってメールをすること自体初めて」だという所員さんがほとんどだったので、研修会当日までにあらかじめスタッフが手伝って所員さんが使っているパソコン 1 台 1 台にフリーのメールソフトとフリーの Yahoo メールアドレスを取得するなどの設定をしました。

当日の研修会では、所員さんに「メールソフトを起動」して、自
のメールアドレスを入れる
などの「ユーザーアカウント
設定」からして貰いましたが、メールアドレスを全角



の英数字で入力してしまったたり、メールアドレスの文字が一文字抜けるなど
されて、皆さん苦労されながら、「ユーザーアカウント設定」をしていました。

ただ、残念なことに当工房は、一回線しかインターネットの回線を
引いてなくて、そこに 9 名の所員さんが一斉に、インターネット回線を使いメ
ールの送受信をしていたので、ネット回線が混み合っ所員さん同士「電子メール」でのメッセージをやり取りする段階
までには至りませんでした。

所員さんの中には、Aya さんに対して、「イラストの勉強大変だと思いますが
頑張ってくださいね」と心温まるメッセージを入力されていた方もおられました。

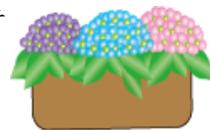
今回は、所員さん同士でメールの送受信することができなくて、心残りでした
がこれから日々の研修の中でも少しずつ取り入れていくことによって、「メール」
がスタッフや所員さん同士のより一層コミュニケーションを深める 1 つのツール
になればと思っています。



6 月の日程

- 6/9(木) 尼崎より監査指導
13:30～
6/27(月) 暑中見舞いハガキ作成講座
13:00～15:00

※今月の工房内レクと
して、暑中見舞いハガキ
作成講座を行います。



C 君の研修風景

昨年の秋より、一回 500 円の通所生として月に 2 回西宮からヘルパーさんと
C 君が来てくれています。

重度の知的障害があるため、「ふりがな付きの簡単な言葉で説明した」彼専用
のオリジナルテキストを作成したり、指導方法も工夫を凝らして指導させて貰
っています。

彼は、元々パソコンが好きだったようで、テキストを読みこなして理解する
ことは難しそうですが、図やイラストによる説明をメインにしたふりがな付きのオリジナルテキストを用意することで、
彼なりに図やイラストを見て、テキストの図や説明どおりにしてくれ、毎回頑張って 1 つの word の文書の作品を仕上げ
てくれています。

毎回、彼専用のテキストを作るのに工房でも自宅でも何十時間もかかって苦労していますが、彼が word 文書の作品を
仕上げ印刷するとき、「できました」と彼の満足そうな声を聞くと「苦労してテキストを作った甲斐があった」と思い、
何たか私まで嬉しくなります。月に 2 回のうち、1 回は色鉛筆を使って好きな絵を描いて貰っていますが、彼が描く絵
はどれも個性的な絵ばかりなので、ぜひ彼の絵をスキャナーなどでパソコンに取り込んで、ポストカードやカレンダーな
どの作品にしていきたいと考えています。



監査指導終わりました・・・

当工房も早いもので、開所5年目を迎えました。

5年目にあって、今月の9日に尼崎市より、法人指導課2名、障害福祉課1名の方が来られて、法人監査指導がありました。

今回は、5年分監査されるということだったので、会計帳簿、日々の事業日誌やスタッフの有給休暇などの各種届出書に不備はないかとスタッフ3人で念入りにチェックしました。

なかなか日頃は、スタッフ3人とも日頃の研修業務や運営業務に追われていて、日頃より必要な書類を整えたり1つ1つの書類をきめ細かくチェックしたりできずにいましたが、今回監査指導を受けたことで、再度地活センターを運営していく上で必要な改めて書類を整えることができたり、日々の運営業務や研修指導業務を見直す1つのいいきっかけになりました。

消防関係の書類の不備や、キッチン回りにもトイレと同様、ペーパータオルを備え付けるなどの細かい指導を受けましたが、おおむね「適切な運営がなされている」とのことでした。

スタッフ一同、今回の監査指導で指摘を受けた改善点などを真摯に受け止め、改善すべき点は早期に改善し、これからもより適切な運営を心がけていきたいと思います。

いちごジャム、配達を始めています

東北大地震以降、当パソコン工房の運営主体「NPO法人尼崎障害者センター」として、「東北の障害者作業所物品の販売支援」を5年間続けてきました。もうすっかり味を覚えていただいた仙台市「麦の会」のクッキーや「はらから福祉会」のかりんとう、「中山工房」の味みそなど、購入・販売を続けてきました。

津波で潮びたしになった塩害で全滅したイチゴ畑が3年前より復活し、いちごジャムを毎年4月予約・6月にお届けできるようになりました。今年は熊本大地震が起こった4/17に読売新聞の西部本社版家庭欄に「復興願うイチゴジャム」という記事を掲載していただいたことで、読者よりの電話注文が187人にもものぼり、今までの方と合わせて1000個を超える申し込みとなりました。これまで作っていただいていた「工房地球村」だけではまにあわず、急きょ同じ仙台の作業所でジャムを製造している作業所「わ・は・わ美里」に応援を頼み、今年1070個の発注を終えました。

これまで注文していただいていた方々と合わせて、ことしは268名のかたとつながりを持つことができました。現在ゆうパックによる発送、手渡しのバッグ詰めわけの作業を急いでいます。ゆうパックの総数は214個、送料合計額が104,890円になりました。

「ひと瓶でもふた瓶でも送らせていただきます。売価で購入して売価で売って代金はそのまま東北の作業所へ届けます。送料など経費は非営利事業としてNPO法人が受け持ちます。」としてこれまでやってきましたが、このために用意していた手持ち資金50万円が底をつきました。東北支援事業は継続しますので、今後どのような運営ができるか、皆さんに相談をかけますので、お力をお貸しください。

いま代金が次々に振り込まれています。その振込用紙にいろいろな書き込みがあります。

「いつも美味しいジャムを送って下さりありがとうございます。ご多用のことと思いますが健康に気をつけてお過ごし下さいませ。」「少しでもカンパさせていただきます。」「とてもおいしく毎朝いただいています。ありがとう。」

とても勇気づきます。ご支援のみなさま、今後ともよろしく願います。

(NPO法人尼崎障害者センター 代表理事 広瀬 徹)

読売新聞 2016.4.17



復興願うイチゴジャム 予約販売
兵庫県尼崎市のNPO法人「尼崎障害者センター」は、東日本大震災で被災した宮城県山元町で栽培するイチゴを使ったジャムを、真夏を予約販売している。受け付けは30日まで。商品は6月中旬に届く予定。ジャムを作っているのは、同町の障害者施設「工房地球村」によると、津波で同町のイチゴ農家130軒のうち120軒が被災した。復興の象徴として栽培を復活させ、ジャム作りも1年後には再開した。1瓶(180g入り)750円、送料は同センターが負担する。代表理事の広瀬徹さんは「心のつながりを大切にしたいので、1個でも2個でも届けます」と話している。希望者は同センター(06-6418-2120)・ファックス(06-6418-1342)、メール(am.asgcenter@yahoo.co.jp)と申し込む。

